

# 荒船山山行報告

【山行日】2019年11月17(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所駐車場 AM5:00

【費 用】2,300円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西 安西、  
伊藤、齊藤、島田、清水、関、鶴見、福島、福田、  
藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所P5:00=内山峠P  
6:45/7:00→鉄岩修験道場跡7:50/8:00→

鱸岩8:50/9:00→経塚山9:40/9:50→

頂稜中間点10:20/10:50→鱸岩11:00→鉄岩修験道場跡

11:50/12:00→内山峠P12:40/12:50=道の駅「しもにた」13:20/13:40=岩舟支所P15:15

山頂の紅葉は終わってしまったが、山麓の紅葉はまだ残っているだろうと荒船山に登る計画を立てた。荒船山は西上州を代表する山の一つで、航空母艦を思わせる平坦な山容は遠くから見ても一目で解る。上信越道を進み下仁田ICで降りて、国道254号線を佐久平方面へ進む。



途中、道の駅「しもにた」に寄り、トイレを済ませて登山口の内山峠に向かう。内山トンネルの手前から右に進み、その先のT字路を左に進むと内山峠の駐車場に着く。すでに数台車が止めてあり、我々も準備を整えストレッチを行って出発する。登山道に入るとすでに木々は落葉していたが、所々赤や黄色のカエデの紅葉が残っていて目を楽しませてくれる。稜線の道から時折左手に目指す鱸岩を見上げて、徐々に高度を上げて行く。岩の間から下界が覗け、山麓はまだ紅葉が残っており錦の樹海が広がっていた。途中、崩落した場所があり、急なハシゴで尾根を越えトラバースして進む。鉄岩修験道場跡で一息いれ、柿をいただき喉を潤す。一杯水の水場を過ぎるとハシゴを登り、岩場の急登が始まる。露岩混じりの道をジグザグ進み、傾斜が緩むと平坦な頂上台地の一角に出る。天気予報は高気圧に覆われて登山日和の予報だったが、北西の風が強く肌寒く感じる天気だった。平坦な道をわずかに進み、左に少し下ると鱸岩展望台に出る。北面が大きく開け浅間山や物見山、北アルプスの展望が素晴らしい場所だが、今日は雲が掛かりいずれも山頂部は見えなかった。それでも山麓の紅葉や周囲の山々の展望が良く、皆さん景色を楽しんで写真に収めていた。



方向指示盤の近くにいた男性が、「ここにザックが置きっぱなしになっていて、人が居ないので崖下に転落したのではないか」と言って、警察に連絡したという。確かにその男性と我々し



かいなくて、ザックの中には財布や免許証が入っており、置きっぱなしで何処かに行くことは無いだろう。その方の話では警察が到着するまで2時間くらい掛かるようで、警察が来るまでここで待っているようだ。その方をお願いして我々は経塚山へ向かうことにする。東屋に寄りトイレを借りようとしたら、扉に鍵が掛かり使用できなかった。

ここから荒船山山頂の経塚山までは、平坦なテーブルマウンテンの頂稜を南に向かって行く。

平坦な木立の中の登山道を歩き、小沢を渡り草原から再び木立に入れば経塚入口に着く。直進する星尾峠への道を分け、左に急坂の道を登り切ると経塚山山頂に着く。山頂は細長く狭いが二等三角点が置かれ、石祠が祀られている。木立の中で展望はいまいち良くないが、休憩して柿や菓子をいただき記念写真を撮る。次々と登山者が登って来るので、場所を譲り下山する。平坦な頂稜部の草原は風も無く穏やかなので、少し早いですがここでランチタイムとする。倒木のベンチに腰をおろし、お湯を沸かして各自持参したカップ麺やスープ、おにぎりをいただく。昼食が済んだら下山し途中の壱岩に寄ると、先ほどの男性が居てまだ警察は到着していない。その方に転落者の対応をお願いし、我々は往路を戻り下山する。岩場の下りに差し掛かると、下から30数名のパーティーが登って来た。あまりに大勢なので待ってもらい、先に下らせてもらうことにする。無事通過し鉾岩修験道場跡で最後の休憩を取り、ゆっくり下って内山峠の駐車場に下山し帰路につく。



途中、道の駅「しもにた」に寄り、名物の味噌おでんを食べ、お土産に下仁田ネギや野菜をゲットし岩舟支所に帰着した。家に帰ってネットで「荒船山転落事故」で検索すると、神奈川県20代の男性が壱岩の下で遺体で発見されたと出ている。

2009年9月にクレヨンしんちゃんの作者が転落して以来、毎年のように転落者が相次ぎ今年も3名転落死したようだ。ご冥福をお祈りいたします。